



アペルト15 富安由真

2021年10月30日（土）—2022年3月21日（祝・月）

主催：金沢21世紀美術館〔公益財団法人金沢芸術創造財団〕

協力：株式会社Slacktide、時由地材、株式会社 宗重商店

The Pale Horse 蒼ざめた馬

2021

サイズ可変

パネルに油彩、家具、日用品、古材、砂、電球、19Hzの不可聴音、他

特殊照明：鈴木泰人(OBI)

施工：TRNK

制作管理：株式会社アートフロントギャラリー

助成：NOMURA 野村財団

作家蔵

本展開催にあたり、以下の皆様のご協力を得ました。厚くお礼申し上げますとともに、ここに記載することのできなかった関係者の方々へも併せて感謝申し上げます。
(敬称略、アルファベット順)

中條雅和、林田堅太郎、洪汀希、今川精三郎、稲葉貴徳、稲塚遥香、木村真代、持田敦子、本谷由香+園部信一、南条嘉毅、野口万里子、庄司秀行、鈴木大輔、土屋裕仁、山口豪志

いちばらアート×ミックス実行委員会

奥能登国際芸術祭実行委員会

NPO法人越後妻有里山協働機構

KAMU kanazawa

作家ステートメント

何かの境目にあること、不確定で、不鮮明なこと。そういったことに、私たちは不安を覚えます。けれども私たちの世界では、そういった「わからないこと」が本来はたくさんあります。

心霊現象や超常現象、或いは夢の世界といったものも、それにあたります。

私たちを不安にさせるそういったよくわからないことを、私たちは排除しながら生きていますが、そういったよくわからないものの中にこそ、大事なことが潜んでいるかも知れないと私は思っています。

私は心霊や夢などを題材に、体験型のインスタレーション作品を多く発表しています。視覚だけでなく、五感や、時に第六感を使いながら、観る人が体感し体験することに価値を感じるからです。

今回発表する《The Pale Horse 蒼ざめた馬》という作品は、私の幼少期に見た夢を元にした作品です。ポロポロの小屋、そしてそこに掛かる絵。ただの夢ではありますが、そのイメージは私たちの深層心理の中で、どこか共通して持っている風景であるとも言えます。夢の中で幼い私は、いつの間にか小屋に掛かった絵の中に入り込んでしまっています。自分がいると思っていた世界と虚構の世界の境目がなくなり、足元がぐらつくような経験。そのようなものを表現したいと私は思っています。

「The Pale Horse (蒼ざめた馬)」とは、新約聖書の『ヨハネの黙示録』(第6章第8節)に登場する馬のことです。「死」を意味する騎士が乗っており、黄泉を従えています。

小屋の中では、人間にとっては不可聴音である、19Hzの音を流しています。この19Hzという音は、耳では聞くことができないけれど、身体は感知する周波数の音であるために、不安感を誘発する音だと言われています。また、真偽のほどはわかりませんが、俗に「幽霊が見える音」だとも言われています。

私の作品を通して、観る人が「境目」を意識し、「わからないこと」に目を向けるきっかけを得てくれれば幸いです。

富安由真